

2022年12月22日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報・サステナビリティ推進セクション

スコットランドからロッテルダムへのMCHによる「水素ハイウェイ」構築プロジェクトへの参画

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市、会長兼社長:榊田 雅和、以下「当社」)は、英国・スコットランドからオランダ・ロッテルダム港への水素海上輸送プロジェクト(以下「LHyTS^{*1}(ライツ)プロジェクト」)に参画します。LHyTSプロジェクトでは、ERM社による各種水素キャリアの比較検討の結果として選定された液体有機水素キャリア(LOHC: Liquid Organic Hydrogen Carrier)の一つであるメチルシクロヘキサン^{*2}(以下「MCH」)の活用により、大規模な国際間水素サプライチェーンの構築を目指します。

LHyTSプロジェクトは、Net Zero Technology Center^{*3}をプロジェクトコーディネーターとして、ERM、Axens、EnQuest、Koole Terminals、ロッテルダム港湾公社、スコットランド政府、Shetland Islands Council、Storeggaと当社の計10企業・政府機関による多様な国際コンソーシアムで構成され、スコットランドからロッテルダムへの大規模水素チェーンのパイロットプロジェクト開発を目的とした事業化調査を行います。

このプロジェクトは、スコットランド政府による2030年までに5GW(約45万トン/年)、2045年までに25GW(約225万トン/年)の再エネ由来および低炭素な水素を生産するという水素政策声明とも一致しています。また、欧州全体では2030年までに1,000万トンの水素を輸入するという欧州委員会の目標も設定されています。

欧州エネルギー物流の中核の一つであるロッテルダム港は、ヨーロッパの水素ハブとなる目標を掲げ、その達成のために広範なエネルギー輸入・輸出・貯蔵インフラおよび産業サプライチェーンを北西ヨーロッパの他の産業クラスターへパイプラインを通して接続します。

当社は水素バリューチェーン事業への取り組みをさらに加速化させるとともに、欧州での持続可能な脱炭素社会実現に貢献してまいります。

^{*1} LHyTS: LOHC for Hydrogen Transport from Scotland

^{*2} メチルシクロヘキサン(MCH)

トルエンと水素の化学反応により生成され、常温・常圧で液体であり、化学的にも安定しているため、取り扱いが容易な物質。医薬品や農薬の製造における溶剤、ジェット燃料の混合剤、修正液の溶剤などに幅広く使用されている。

^{*3} Net Zero Technology Center

英国政府及びスコットランド政府からの資金拠出により2017年に設立され、北海の石油・ガス産業の脱炭素化を提唱しネットゼロエネルギー産業に資する技術への共同投資や支援を通じて開発・展開を加速させることを目的とする機関。

[Net Zero Technology Center によるリリース内容はこちら](#)

以上

この件に関するお問い合わせ先 : IR・広報・サステナビリティ推進セクション 池尻 / 津川

Email: irpr@chiyodacorp.com

URL: <https://www.chiyodacorp.com/jp/contact/index.php>